

GRL企画展示 女性の地位向上に捧げた87年 市川房枝の生涯

【市川房枝シンポジウム『市川房枝と郷土愛知』
開催にともなう同時企画】

名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ (GRL) 1階閲覧室



出典: 国立国会図書館デジタルコレクション

1 市川房枝を育んだ風土と家族

市川房枝は1893年(明治26年)5月15日、愛知県にて農業を営む父・藤次郎と母・たつのもとに生まれました。

藤次郎は子供には優しく教育熱心ではありましたが、妻のたつには日常的に暴力を振るっていました。房枝は母の姿を見て、なぜ女性は耐えなければならないのか、男性に従わなければならないのかと疑問を抱くようになります。この幼少期の経験が房枝の活動の原点となりました。

展示資料 『市川房枝 女性の一票で政治を変える』ドメス出版、2019年(GRL所蔵289.1[it])

『市川房枝自伝 戦前編』新宿書房、1974年(GRL所蔵289.1[ic]1[珠]枝文庫)

『市川房枝と婦人参政権運動』市川房枝記念会出版部、1992年(GRL所蔵314.82[ic])

2 市川房枝と平塚らいてう

1919年、房枝は女性解放運動家の平塚らいてうと運命の出会いを果たします。

当時の女性解放活動をリードする存在のらいてうと共に日本初の婦人団体「新婦人協会」を設立し、治安警察法の改正や女性が政治集会に参加できる権利の取得などいくつかの成果を残しました。

展示資料 『国際的視野からみる 近代日本の女性史』慶応義塾大学法学研究会、2020年(GRL所蔵367.21[To])

『だいこんの花』新宿書房、1979年(GRL所蔵289.1[ic])

『元始、女性は太陽であった』市川房枝記念会出版部(GRL所蔵289.1[H]1/2/4)

3 市川房枝-婦人参政権獲得運動とその後

1945年(昭和20年)12月17日、法改正によりついに悲願であった女性参政権が認められます。婦人参政権獲得のため活動してきたことが実を結びました。

女性参政権獲得後も房枝はさらなる女性の権利向上の推進、平和活動や汚職政治の撲滅に尽力し続け、参議院議員として25年務めます。1980年の参議院選挙では87才という高齢にもかかわらず全国トップ当選も果たしました。1981年に心筋梗塞で亡くなるまで女性政治家のパイオニアとして女性の地位向上に捧げた87年でした。

展示資料 『市川房枝、そこから続く「長い列」参政権からジェンダー平等まで』亜紀書房、2023年(GRL所蔵289.1[No])

『市川房枝の言動と活動 年表でたどる婦人参政権運動1893-1936』市川房枝記念会女性と政治センター出版部、2013年(GRL所蔵289.1[ic])

『市川房枝の言動と活動 年表で検証する公職追放1937-1950』市川房枝記念会出版部、2008年(GRL所蔵289.1[ic])

憲法の改正は婦人に何を与えたでしょう (壁新聞) 労働省婦人少年局、1949年(GRL所蔵アーカイブ)

議会政治と婦人(リーフレット) 労働省婦人少年局、1948年(GRL所蔵アーカイブ)

第20回 婦人週間 婦人の能力を社会のために(リーフレット) 労働省婦人少年局、1968年(GRL所蔵アーカイブ)